

昨今、「自分の命は自分で守れ」の自助がやけに強調されていると思いませんか。地球温暖化はグローバルな課題です。温暖化の影響は災害を大規模かつ広域に複合化させます。この大規模広域複合災害に対して「自分の命は自分で守れ」を強調するのはSDGsの精神に反する、とここに宣言したいと思います。自然災害と社会や住民との関わり方について、議論を盛り上げようとの意図で、炎上覚悟のタイトルとさせて頂きました。反論、大いに歓迎です。

スケジュール：

16:30-16:35 趣旨説明
16:35-17:05 話題提供
17:05-17:40 ディスカッション
17:40-17:45 閉会

開催方法：zoom 以下URLからお申し込みください。（事前申込制）
（定員 100 名。定員になり次第締切させていただきます。）

申込 URL：

https://kyoto-u-edu.zoom.us/join/96Z6c30Ja1D_eQ



ご登録後、ミーティング参加に関する情報の確認メールが届きます。

六月十五日（木）
炎上必至
“自助中心主義対策
にあえてもの申す”



厚井高志先生

北海道大学 広域複合災害研究センター

気候変動で激甚化する北海道の土砂災害にどう備えるか？

プロフィール：

北海道大学広域複合災害研究センター准教授，博士（農学）

専門は砂防学。自然に携わる仕事を目指し大学で森林科学を専攻。人間の活動が森林環境に与える影響を明らかにしようと意気込むも、その前に自然な状態の土砂の動きを知る必要があると考え、特に地震や噴火後の土砂動態を研究。学位取得後は（一財）砂防・地すべり技術センターにて防災実務のほか、多くの土砂災害現場で調査に従事。その過程で住民の防災意識と避難行動との関係について興味を持つ。2019年より現職，2021年より副センター長を拝命。

三上直之先生

北海道大学 高等教育推進機構 高等教育研究部

民主主義の刷新で気候変動に対処する—気候市民会議という方法

プロフィール：

北海道大学高等教育推進機構・同大学大学院理学学院准教授。東京大学文学部卒、同大学大学院新領域創成科学研究科博士課程修了。博士（環境学）。北海道大学CoSTEP特任准教授などを経て、2008年から現職。専門は環境社会学、科学技術社会論。無作為選出型の市民会議（ミニ・パブリック）の手法を、環境政策や新たな科学技術の問題に応用する可能性を、自ら実践も行いつつ研究している。代表を務める研究プロジェクトの一環として、2020年に札幌市などとともに国内初の気候市民会議を実施した。著書に『気候民主主義—次世代の政治の動かし方』（岩波書店）など。



コーディネイター

岡田成幸：北海道大学名誉教授

プロフィールとコーディネイトのスコープ：

1953年札幌市生まれ。現在、北海道大学広域複合災害研究センター客員教授。専門は建築系地震防災計画。タイトルは「炎上必至“自助中心主義対策にあえてもの申す”」ですが、これは本討論の起爆テーマです。主題は、それを承けて「長期的対策の政治的意思決定に民主主義は正解か」についてじっくり議論してみたいと思っています。今日、世界の停滞と衰退は民の声が届かない劣化した民主主義にあるとよく言われています。しかし元々、災害対策はテクノクラートによる一方向的(=非民主主義的)なものがほとんどです。対策決定にも民主主義が必要なのでしょうか。民主主義の新たな技術的提案として熟議民主主義が注目されています。今回は、三上直之先生と厚井高志先生と共に議論を深めてみたいと思っています。